

scheme や scheme morphism の性質の定義は `section3_text.pdf` にまとめたので参照すること。同じ PDF で  $B$ -fin.gen. scheme などの独自の用語を定義している。 <http://stacks.math.columbia.edu/tag/01T0> も参照すると良い。

記法について。  $\text{Spec } A_f = D_A(f)$  と書く。

## 1 Definition(s) of Locally of Finite Type Morphism.

**補題 1.1** (Nike's Lemma).  $X :: \text{scheme}$ ,  $U, V \subseteq X, U = \text{Spec } A, V = \text{Spec } B$  かつ  $U \cap V \neq \emptyset$  とする。この時、任意の点  $P \in U \cap V$  に対し、  $a \in A, b \in B$  であって

$$P \in D_A(a) = D_B(b) \subset U \cap V$$

となるものがある。系として Prop2.2 より  $A_a \cong B_b$  が得られる。

(証明). 適当に  $a \in A, b \in B$  をとり、

$$P \in D_B(b) \subseteq D_A(a) \subseteq U \cap V$$

としよう。  $X = \text{Spec } B, X_f = D_B(b), \bar{b} = b|_{D_A(a)} \in A_a$  として Ex2.16a を用いると、

$$D_B(b) = D_A(a) \cap D_B(b) = \text{Spec}(A_a)_{\bar{b}}.$$

なので、あとは  $(A_a)_{\bar{b}}$  を調べれば良い。

$(A_a)_{\bar{b}}$  の元は以下のように書ける。

$$\frac{u/a^m}{\bar{b}^n} = \frac{u}{a^m \bar{b}^n} \quad (m, n \in \mathbb{N}; u \in A).$$

$\bar{b} \in A_a$  なので  $a^N \bar{b} = a' \in A$  となる  $N \in \mathbb{N}$  が存在する。

$$\frac{ua^{nN}}{a^m a^{nN} \bar{b}^n} = \frac{ua^{nN}}{a^m a'^n}.$$

仮に  $m \geq n$  とすると

$$\frac{ua^{nN}}{a^m a'^n} = \frac{ua^{m-n+nN}}{(aa')^m}$$

$m \leq n$  でも同様に分子分母に  $a'^{n-m}$  をかければ、  $(A_a)_{\bar{b}}$  の元は  $A_{aa'}$  の元として書ける。逆に  $A_{aa'}$  の元を  $(A_a)_{\bar{b}}$  の元として書くことは直ちに出来る。よって  $(A_a)_{\bar{b}} = A_{aa'}$ 。

以上より、  $\alpha = aa' \in A, b \in B$  について  $D_B(b) = D_A(\alpha)$ . ■

**補題 1.2** (Preimage of  $\text{POS}^{\dagger 1}$  is  $\text{POS}$ ).  $f : X \rightarrow Y :: \text{scheme morphism}$ .  $\text{Spec } B \subseteq Y, f^{-1} \text{Spec } B = \bigcup_{i \in I} \text{Spec } C_i$  とする。この時、以下が成立する。

$$\forall b \in B, \exists \{c_i \in C_i\}, f^{-1} D_B(b) = \bigcup_{i \in I} D_{C_i}(c_i).$$

---

<sup>†1</sup> Principle Open Set

(証明).  $U = \operatorname{Spec} B, V_i = \operatorname{Spec} C_i$  とする. すると  $f$  の制限により scheme morphism  $f|_{V_i} : V_i \rightarrow U$  が得られる. これは  $V_i \hookrightarrow X \xrightarrow{f} Y$  という写像で, したがって逆写像は  $(f|_{V_i})(S) = f^{-1}(S) \cap V_i$  であることに注意. structure sheaf の間の射を考えると, 以下が得られる.

$$\phi_i = ((f|_{V_i})^\#)_U : B = \mathcal{O}_U(U) \rightarrow (f|_{V_i})_* \mathcal{O}_{V_i}(U) = C_i.$$

ここで Prop2.2 を用いた. Prop2.3 から,  $\phi_i$  は  $f|_{V_i} : V_i \rightarrow U$  に 1-1 対応し, 特に topological space として

$$f|_{V_i}(\mathfrak{p}) = \phi_i^{-1}(\mathfrak{p}) \quad (\mathfrak{p} \in \operatorname{Spec} C_i)$$

が成り立つ. このことから以下が得られる.

$$f^{-1}(D_B(b)) \cap V_i = (f|_{V_i})^{-1}D_B(b) = D_{C_i}(\phi_i(b)).$$

最左辺と最右辺を  $\bigcup_{i \in I}$  すれば主張が示せる. ■

**補題 1.3.**  $f \in A$  とする. 有限生成  $A_f$  代数は有限生成  $A$  代数でもある.

(証明). 変数の数は問題にならないので 1 変数で証明する. (つまり以下で  $A_f[x]$  を多変数にしても構わない.) 有限生成  $A_f$  代数  $B$  には  $A_f[x]$  からの全射が存在する.  $A_f[x]$  には  $A[x, y]$  から次のような全射が存在する.

$$y \mapsto 1/f$$

これが全射であることは,

$$ay^n x^m \mapsto (a/f^n)x^m \in A_f[x]$$

のように分かる. あとはこの写像が  $A$  準同型 (代入写像) であることに注意すれば良い. よって  $A[x, y] \rightarrow A_f[x] \rightarrow B$  という全射が存在する. ■

以下の命題を示す.

$$\begin{aligned} & \exists \{B_i\}_{i \in I}, \left[ Y = \bigcup_{i \in I} \operatorname{Spec} B_i \right] \wedge [\forall i \in I, f^{-1}(\operatorname{Spec} B_i) :: \text{locally } B_i\text{-fin.gen. scheme}] \\ & \iff \forall \operatorname{Spec} A \subseteq X, f^{-1}(\operatorname{Spec} A) :: \text{locally } A\text{-fin.gen. scheme} \end{aligned}$$

下から上は自明である. 上から下を示そう.

$U = \operatorname{Spec} A \subset X, V_i = \operatorname{Spec} B_i$  とする.  $U \cap V_i$  の各点  $P$  に対し,

$$P \in D_{B_i}(b_{ij}) = D_A(a_{ij}) \subseteq U \cap V_i$$

であるような  $b_{ij} \in B_i, a_{ij} \in A$  が取れる.  $P$  を動かせば, このようにして  $U$  が被覆できる.

$$U = \bigcup_{i,j} D_{B_i}(b_{ij}) = \bigcup_{i,j} D_A(a_{ij}).$$

仮定より, 各  $V_i$  は  $\{\operatorname{Spec} C_{ik}\}_{i,k}$  で被覆され, これらの  $C_{ik}$  は有限生成  $B_i$  代数<sup>†2</sup>であるようにとれる.

---

<sup>†2</sup>  $\phi_{ik} = ((f|_{\operatorname{Spec} C_{ik}})^\#)_{\operatorname{Spec} B_i}$  で代数とみなす.

Lemma (Preimage of POS is POS) より,  $c_{ijk} \in C_{ik}$  が存在し, 以下のようになる.

$$f^{-1}U = \bigcup_{i,j} f^{-1}D_{B_i}(b_{ij}) = \bigcup_{i,j} \bigcup_k D_{C_{ik}}(c_{ijk}).$$

$D_{C_{ik}}(c_{ijk}) = \text{Spec}(C_{ik})_{c_{ijk}}$  であり,  $(C_{ik})_{c_{ijk}}$  は有限生成  $(B_i)_{b_{ij}}$  代数. これは有限生成代数の定義から存在する全射  $B[x_1, \dots, x_n] \rightarrow C_{ik}$  の両辺を局所化<sup>†3</sup>すれば分かる.  $(B_i)_{b_{ij}} \cong A_{a_{ij}}$  (Nike's Lemma の最後の文) と最後の Lemma より,  $(C_{ik})_{c_{ijk}}$  は有限生成  $A$  代数.

以上より,  $f^{-1} \text{Spec } A$  は  $\text{Spec}(C_{ik})_{c_{ijk}}$  で被覆され, 各  $(C_{ik})_{c_{ijk}}$  は有限生成  $A$  代数である.

## 2 Definition(s) of Quasi-Compact Morphism.

以下を示す.

$$\begin{aligned} & \exists \{B_i\}_{i \in I}, \left[ Y = \bigcup_{i \in I} \text{Spec } B_i \right] \wedge \left[ \forall i \in I, f^{-1}(\text{Spec } B_i) :: \text{quasi-compact.} \right] \\ \iff & \forall \text{Spec } A \subseteq Y, f^{-1}(\text{Spec } A) :: \text{quasi-compact.} \end{aligned}$$

まず  $\text{Spec } A = \bigcup_{i,j} D_{B_i}(b_{ij})$  となるように  $b_{ij}$  をとる. Ex2.13b より  $\text{Spec } A$  は quasi-compact だから  $b_{ij}$  は有限個でよい.  $f^{-1} \text{Spec } B_i$  は open subscheme だから,  $f^{-1} \text{Spec } B_i = \bigcup_{i,k} \text{Spec } C_{ik}$  なる  $C_{ik}$  がある. 仮定より  $f^{-1} \text{Spec } B_i$  は quasi-compact であるから  $C_{ik}$  は有限個. これに Ex3.1 の中で示した Lemma (Preimage of POS is POS) を用いると以下のようになる.

$$f^{-1} \text{Spec } A = \bigcup_{i,j} f^{-1}D_{B_i}(b_{ij}) = \bigcup_{i,j} \bigcup_k D_{C_{ik}}(c_{ijk}).$$

確認したとおり組  $(i, j, k)$  は高々有限の組み合わせしか無い. Ex2.13 の証明にあるとおり,  $D_{C_{ik}}(c_{ijk})$  は quasi-compact だから,  $f^{-1} \text{Spec } A$  は quasi-compact な開集合の有限和. よって  $f^{-1} \text{Spec } A$  も quasi-compact.

---

<sup>†3</sup>  $C_{ik}$  が  $\phi_{ik}$  による  $B_i$  代数であることと  $c_{ijk} = \phi_{ik}(b_{ij})$  を用いて計算する.

3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23